

2017年11月購入図書

No.	図書名	内容	著者名	出版社
1	産まないことは「逃げ」ですか？	産む人生か、産まない人生か。アラサー&アラフォーの女性にとって誰もがぶつかる「妊娠・出産」の問題。女性をとり巻く世間の無関心と無神経さに対して、妊娠の喜び流産のはざままで、泣けます。自らの体験を通じて得た「気づき」、子どもがいなくても自分が主語の人生をいかに楽しむか。産んでも、産まなくてもこれでよかったと思える人生のために	吉田 潮	ベストセラーズ
2	淳子のでっぺん	2016年10月に逝去した登山家・田部井淳子。男女差別が色濃い時代、女性として世界で初めてエベレスト登頂に成功した彼女は、どのように生き、どのように山に魅入られたのか—その物語を完全小説化。山を愛し、家族を思い、人生を慈しんだ淳子が、その“でっぺん”に至るまでの、辛く苦しくも、喜びと輝きに満ちた日々。すべての女性の背中を優しく押してくれる、感動長篇!	唯川恵	幻冬舎
3	パパは脳研究者 子どもを育てる脳科学	「脳」がわかると、子育てはもっと楽しくなる! 脳研究者・池谷裕二さんが、娘さんの4歳までの成長を、脳の発達と機能の原理から分析し、子育てのコツとして惜しみなくご紹介! 専門家だから伝えられる「脳科学の育児術」は、大人にとっても新しい発見があること、間違いなしです。	池谷裕二	クレヨンハウス
4	15歳、ぬけがら	母子家庭で育つ中学三年生の麻美は、「いちばんボロい」といわれる市営住宅に住んでいる。家はゴミ屋敷。この春から心療内科に通う母は、一日中、なにもしないでただ寝ているだけ。食事は給食が頼りなのに、そんな現状を先生は知りもしない。夏休みに入って、夜の仲間が、万引き、出会い系と非行に手を染めていくなか、麻美は同じ住宅に住む同級生がきっかけで、学習支援塾『まなび〜』に出会う。『まなび〜』が与えてくれたのは、おいしいごはん、頼りになる大人だった。	栗沢まり	講談社
5	アカデミック・ハラスメントの解決	パワー・ハラスメントの大学版とも言えるアカデミック・ハラスメント(アカハラ)は、近年社会問題化していながらもこれを主題とした一般向けの書籍が存在しませんでした。そこで本書では、ハラスメント相談員歴20年以上の著者二名が平易な言葉でアカハラの本質に迫り、被害に迅速に対応できない大学運営の問題点を指摘しました。また、さまざまな事例を挙げながら、実践的な解決方法も提示しています。さらに、文系と理系の違いや学問の違いによってケースの特徴が異なっている点にも着目しており、やはり近年社会問題化している研究不正の背景に各研究室等のアカハラがあることについても触れています。	北仲千里 横山美栄子	寿郎社
6	LGBTを読みとく クィア・スタディーズ入門	最近よく見かける「LGBT」という言葉。メディアなどでも取り上げられ、この言葉からレズビアン、ゲイの当事者を思い浮かべる人も増えている。しかし、それはセクシュアルマイノリティのほんの一握りの姿に過ぎない。バイセクシュアルやトランスジェンダーについてはほとんど言及されず、それらの言葉ではくることができない性のかたちがあることも見逃されている。「LGBT」を手掛かりとして、多様な性のありかたを知る方法を学ぶための一冊。	森山至貴	筑摩書房

7	九時の月	15歳の女の子ファリンは、イランの首都テヘランで女子校に通っています。学校と家を往復するゆううつな日々を過ごしていたが、美しいサディーラが転校してきて、日常は一変。お互いを思う気持ちを深めていくふたりだが、内戦は少女たちの生活にも影を落としはじめ……。同性愛を禁じるイスラムの規律が支配する革命後のイランで、愛し合うことをあきらめなかった少女の物語。	デボラ・エリス／作 もりうちすみこ／訳	さ・え・ら書房
8	なぜジェンダー教育を 大学でおこなうのか 日本と海外の比較から考える	近年、「女性活躍」が叫ばれる一方で、会社・企業では女性や性的マイノリティへのハラスメントが後を絶たず、有名大学の男子学生による性犯罪もたびたび報道されている。また、女性蔑視のCM・広告・コンテンツが「炎上」することも多い。「男女格差が世界で111位」という日本の現実を私たちは生きているのである。ジェンダー・センシティブな視点はなぜ必要か、それを学生が身につけるには教育カリキュラムをどう組み立てるのか、学生たちの主体的な学びをどう引き出して並走するのか。アメリカ・フランス・中国の大学でのジェンダー教育の歴史や実践例を紹介し、国内の教育の実情、社会人教育・男性学の視点、LGBTIの学生への対応も提示して、ダイバーシティ環境の整備=社会の多様性に直結する大学でのジェンダー教育のあり方を提言する。	村田晶子 弓削尚子	青弓社
9	皿洗いするの、どっち？ 目指せ、家庭内男女平等！	結婚って、超ハッピー？ それとも、地獄？ 男と女の果てなき心理戦を痛快レポート！ アラサー期に恋愛モードを迎え、「同棲→結婚」のパターンをたどった人気女子作家の超個人的実況レポートで 男と女の真実がまるわかり！ ・男がいると家事は3倍？ ・男手問題は同棲で解決する？ ・猫と暮らす女の弱点は？ ・女が本当に欲しいものは？ ・「男は大型犬」説の真実とは？ ……etc. 婚前男女の9割が気づかない 男の実態、女の言い分が満載。結婚を考える女子必読！ 既婚女子には共感指数MAX！	山内マリコ	マガジンハウス
10	家族・働き方 社会を変える父親への子育て支援 少子化対策の切り札	父親に対しての子育て支援が、ますます深刻化する少子化対策の、最後の切り札ともいわれ注目を集めています。父親への子育て支援は、主観的にも客観的にも育児の主体としての意識を持ちにくい状況を打破し、自身やパートナーの働き方、関係のあり方も考慮に入れて、本人だけでなく取り巻く社会全体に働きかけて支援することが求められます。本書では、端緒についたばかりの父親への子育て支援について、最先端の研究結果と全国からの事例を紹介し、その全体像にせまっていきます。	小崎恭弘 田辺昌吾 松本しのぶ	ミネルヴァ書房